

え

る

の

あ

目次

報告 女性プラザ祭2019講演会…………… 1	インフォメーション…………… 4
女性プラザ祭2019レポート…………… 2・3	



報告 女性プラザ祭2019講演会

『47年間に変わったこと、変わらないこと
—女性の視点から考える「女性活躍」とは?—』

札幌大学客員教授
中田 美知子さん

私は東京生まれ、東京育ち。1972年、HBCに入社し北海道に来ました。今日は私が北海道民になってからの47年間でどんな変化があったかについてお話ししたいと思います。

時代が変化しています。一時期は女性対男性の対立構図の時代がありましたが、女性問題は男性問題の時代になってきました。少子化問題や介護問題、働き手不足など女性だけでは解決できません。どうしたらいいか必死になって考えなければいけない時代になりました。

なぜ「女性活躍」が注目されたか？世界経済フォーラムが発表した男女格差（2018年）は世界149か国中、日本は110位です。諸外国と比べて女性の地位が低い。国としての責任が問われている中、企業はどうかという業績不振です。どう変わるか、どう変えるか。これまでにない女性の発想、女性の新たな視点が必要です。個人はモノから心やコトへ、「仕事・家庭・個人」のバランスが取れた生活をしたいという時代へ変わってきました。国と企業と個人の利益が一致したのです。

「イコール・ペイ・デイ」を知っていますか？平均賃金が男性より低い女性は、男性の年収分を手にするには1年より何日も余計に働く必要があります。女性

が余計に働いてようやく同額を手にする日、それが「イコール・ペイ・デイ」です。日本では、男性が2018年の1年間で得た賃金と同額を女性が手にするためには2019年の5月13日まで、4カ月と13日余計に働くなくてはなりません。

なぜこれだけの差が生まれるのでしょうか？まず「勤続年数の差」、結婚や出産を機に早期に退職する女性が多い。次に「キャリアの中断」、会社に戻った時にマミートラックに乗ってしまうケースもあります。「管理職登用の遅れ」「性的役割分担意識」「アンコンシャスバイアス」もあります。

男女の賃金格差を説明する時、最も大きな要因は「管理職割合の男女格差」です。管理職昇進率が男女で大きく異なるのです。管理職になる要件として「長時間労働を前提とする」という企業慣行が女性の管理職割合を減らしている。昇進機会の男女の平等化が最も重要です。

札幌市の企業経営動向調査（2018年上期）によると、女性の活躍推進に取り組んでいない企業は全体の41.1%。そのうち45.2%が女性活躍の取り組みの必要性を感じていない。道内企業を対象とした北洋銀行の調査では、女性活躍推進法に基づき、仕事と家庭の両立支援策など行動計画を策定した道内企業は8%、策定の予定がない企業は42%。相変わらず低いというのが北海道の現状です。

「女性の活躍なんて知らない」と思う人、無意識に変化を拒む人たちはいます。女性活躍推進法やワークライフバランスに対応できるかどうかは会社が社会の変化に適応できるかどうかの試金石です。ぜひ男性、女性ともに生き生きと働く職場を作ってほしいと思います。男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会になってほしいです。



女性プラザ祭2019レポート

イベント紹介

プラザ祭期間中に開催したイベントを写真でチラッとご紹介しします。

オープニングコンサート



二胡が奏でる艶やかな音色にうっとり酔いしました。

マルシェ



出店者こだわりの商品がズラリ。美味しい豚汁のレストランも大人気でした。

在宅ワークセミナー



基礎知識と心構えを習得しました。目指せ！在宅ワーカー。

はちみつ講座



はちみつの万能さに驚き！たっぷり試食もしました。

女も男もワイワイセッション



勇気をもって
Step by Step

NPO法人 八剣山エコケータリング
代表 ビアンカ・フルストさん

今日の講演を『勇気をもってStep by Step』というタイトルにしたのは、問題にぶつかった時にどうやって乗り越えたか、その時その時に勇気がいつも必要だった、ということをお伝えしたいからです。

最初に困ったと思ったのは、札幌国際プラザにいた時、札幌市環境保全協議会に呼ばれ参加したら会長をやってくれないか、と言われたときです。当時は、私が会長という大切な役割ができるのかと迷いましたが、周りの後押しもあり、勇気を出して「イエス」といいました。考えてみれば、初めてやることは人生の中にたくさんあるわけで、その中で「よし、精いっぱい頑張ろう」という気持ちさえあれば、課題と共に成長し、チャンスをつかむことができます。自分の中にミッションやパッションを感じ、「やりたい」という気持ちがあるならば、勇気を持って行動することが大事だと思います。

札幌市南区八剣山で果樹園を営む夫は、果樹園にレストランを作ったり、釣り堀を作ったりして、だんだん観光農園という形にしていきました。私はこの場所で、北海道でもやりたいと思っていたドイツの自然エネルギーの活用に取り組んでみようと思った。ただ、お金がなければチャレンジもできないので、農産物を使ってドイツ料理をケータリングという形でパーティやレセプションに届ける事業や、果樹園の中の自然素材を使って小物作り体験をしてもらう活動もスタートしました。

日本でも太陽光発電ができると紹介しても、奇異な目で見られることが多かったのですが、福島第一原発事故の後には興味や関心を示してくれる人が増え、たくさんの方が自家発電のことを学んでくれるようになりました。そこで、自然エネルギーを学ぶために、ソーラークッカー（太陽熱調理）の体験を始めました。晴れていれば、単純なパラボラアンテナのようなツールだけであってもお湯が沸く、ジャムができるということを目の前で見ると、北海道でも太陽光や太陽熱の活用ができるんだということが分かってもらえます。昨年の北海道胆振東部地震が起こるまでは、太陽光発電や太陽熱調理の必要性を理解できない人も多くいましたが、大停電が起きて、電力網から自立した自然エネルギーが災害時に力になることを理解してもらえるようになったと思っています。人の気持ちを動かすのは、技術そのものよりも体験だと思っています。ソーラークッカーを通して楽しく学ぶことで、食育、防災、エネルギーを全部ひとつの活動につなげることができます。また、ソーラークッカーだけではなく、サバイバルキャンプとか、修学旅行生の受け入れや社会人研修の受け入れといった様々な試みを通して、新しい活動に取り組み、それをいかに農家の収入確保につなげられるかという課題に取り組んでいます。

まだまだ課題はたくさんあるのですが、できるだけ環境に配慮した持続可能な社会につながるような活動が地域活性化につながるプログラムにできるかどうかは、私のいまの闘いです。

テーマ：「北の★女性からのメッセージ」



丘の上から愛を込めて

株式会社 丘の上のわくわくカンパニー
代表取締役 服部 佐知子さん

私は、自分のことを「夢見る夢子」と呼んでいます。どれからやったらいいかわからないくらいたくさん夢があります。

鶴居村には、自給自足の生活を目指して家族と共に戻ってきました。酪農家になりたかった私は、酪農ヘルパーという仕事をしながら色々な農家へ手伝いに行っていました。でも、「農家しかできないこんなところになんで来たの?」と言われ、自分にとって理想の生活をしている人がそんな風に思っていることに衝撃を受け、自分は酪農の応援団になろうと決意しました。そこで、大好きな酪農と大好きな鶴居村のために美味しい牛乳を料理という形にして、皆さんに酪農を知ってもらおうとハートンツリーというレストランを作りました。添加物を使わない自然の料理でお客さんに喜んでもらい、心も癒して欲しいと頑張ってきました。ハーブや野菜、塩の手作りや、チーズ工房や宿泊施設のコテージ、ゲストハウスの改装なども家族と一緒に作りました。牧歌的な風景を見渡せる丘の上にあるので、朝焼け、日中のお日様、夕焼け、満天の星、全て独り占めでき、生活音が何もない自然の音だけの世界を満喫できます。ここでは、ソーセージやチーズ作りの体験、セミナー、料理教室なども行っています。ホームステイも受け入れているので、世界各国の若者と農業体験をしながら毎日楽しく交流しています。

お店を始めた頃、子供たちはまだ小学生でした。テレビ番組で取り上げられたのをきっかけにお店は大繁盛したのですが、全部手作りのので、仕込みや接客で朝から晩まで働き詰めです。あまりの忙しさに子供たちは自分でお茶漬けやインスタントラーメンを食べる日々。子供たちと向き合いたいのには叶わない現状に、次第に気持ちのバランスが崩れ、あるとき味覚がなくなりました。お店を始めてから「佐知子さん」と呼ばれることで、私個人を認められているという実感と喜びから、お店のことばかりに没頭しすぎて子供たちのことを放っておいた罪悪感で前に進めなくなり、お店を2年間休んでいました。ようやく気力も戻ってきた頃、味覚も幸い回復してたので、もう一度やり直そうと思った時には、子供たちもそれぞれ大きくなって、お母さんが働くってことは大変なんだということを家族で共有してくれました。いまとなつては、夫が洗濯や掃除をしてくれ、息子のお嫁さんがご飯を作ってくれてくれるので、私は仕事に集中できるととても恵まれた環境にあります。

来年は台湾で念願のカフェをオープンします。思いがけず突然決まった話でしたが、一生懸命やってみて出来なかったら自分で納得できるけど、やりもしないで諦めるのは嫌なので、即決しました。そこではカフェだけでなく、北海道の情報を発信し、台湾と北海道、鶴居村を結ぶ基地にしたいと思っています。

世界中にハートンツリーを作りたい、とまだまだ夢子の夢は膨らみますが、とにかく「動いていたら何かに引っかかる、動かなきゃ何も起きない」というのが今まで21年間やってきて分かったことです。

イベント紹介

プラザセミナー



A I の進展と可能性を中心に、近未来の世界について分かりやすく解説。

つながる・みつけるフェスタ



主催：一般社団法人 North-Woman
(ノースウーマン)

女性セミナー



主催：北海道女性団体連絡協議会

憲法カフェ



主催：北海道ジェンダー研究会

連日のイベントには多くのお客様にご来場いただきました。
ありがとうございました😊



インフォメーション

ケアメン講座開催

～プロから学ぼう！介護と料理のキホンのキ～

今や介護者の3人に1人は親や妻の介護を担う男性と言われています。超高齢社会はみんなで介護を支えなければならない社会です。

この講座は、男性介護についての情報を共有するとともに、プロの料理人からお料理の手ほどきを受けられる、情報交換とスキルアップの講座です。

日 時：令和2年3月7日（土）10:30～13:30

会 場：かでる2・7 6階610・620会議室
（札幌市中央区北2条西7丁目）

●聞いて学ぼう

男性介護の特性と介護保険制度について

講師：さっぽろ社会福祉士事務所

代表 大島康雄さん

（社会福祉士・精神保健福祉士）

●見て学ぼう

美味しい和食の料理教室

「簡単で美味しいもの」をテーマに教えていただきます。

●話そう

家族介護の交流会

食事をしながら、日頃の疑問や悩みをざっくばらんにお話ししましょう。

参加料：500円（材料費）

定 員：20名（男性対象）

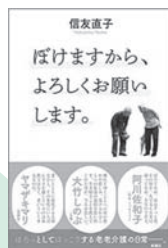
申 込：女性プラザ受付または電話でお申し込みください。

電話011-251-6349

（9:00～17:00 日曜・祝日は除く）

情報提供フロアより

ピックアップ書籍 令和元年度新着図書から



ぼけますから、
よろしくお願いします。

信友 直子 著
新潮社



日本と世界のLGBTの
現状と課題

LGBT法連合会 編
かもがわ出版



変貌する恋愛と結婚

小林盾・川端健嗣 編
新曜社



科学の女性差別と
たたかう

アンジェラ・サイニー 著
東郷えりか訳
作品社

パネルの貸出しについて



（寸法 各 縦73.5cm×横52.5cm）計8枚

ことしも女性プラザ祭に合わせて新たに「SDGsとジェンダー」のパネルを作成しました。

当プラザが所蔵する男女共同参画に関するパネルは、各自治体や地域での啓発活動などで利用される場合、無料で貸出しを行っています。

是非ご活用ください。



※これまでに作成したパネルは、女性プラザのホームページで閲覧することができます。詳細についてはお問い合わせください。

HPリニューアルのお知らせ

このほどホームページをリニューアルしました！

イベント情報や各種お知らせを随時アップしております。

より見やすく分かりやすいサイトへと変身しましたので、

ぜひ覗きにきてください。

道立女性プラザ

検索



- 「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。
- 「えるのす」は女性（Lady）の頭文字と北（North）の造語です。

発行 / 北海道立女性プラザ（指定管理者：公益財団法人北海道女性協会）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 6階（011）251-6329・6349

【ホームページアドレス】 <https://l-north.jp/>

（休館日：日曜・祝日・年末年始）（開館時間：月～金9:00～21:00、土9:00～17:00）＊お問い合わせは9:00～17:00にお願いします。